

# 鷺山市場遺跡発掘調査現場説明会

令和8年1月25日（日）

岐阜市ぎふ魅力づくり推進部文化財保護課



鷺山市場遺跡発掘調査箇所（南東から）



上から見た土橋および堀（上が北）

## 1. 調査概要

- ・所在 地 岐阜県岐阜市大字鷺山字中渉地内（下図のとおり）
- ・調査の原因 都市計画道路鷺山下土居線築造等工事に伴う緊急発掘調査
- ・調査期間 令和7年11月10日から令和8年2月27日まで（予定）
- ・調査面積 1,300m<sup>2</sup>

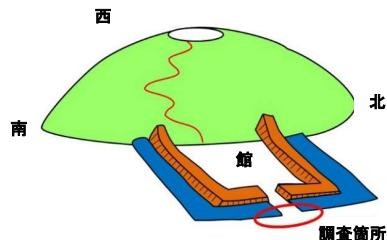


鷺山市場遺跡は長良川右岸の扇状地上に立地し、西側には鷺山が位置します。

鷺山の東山麓には**東西約150m、南北約200mの戦国時代の館**【※用語解説 1】が存在していたと考えられており、これまでの試掘調査でも堀と土塁の一部が見つかっています。

今回の調査箇所は、館の東側にあたる場所と考えられます。

調査箇所の大半は、江戸時代には河道となっていたため、大部分が削平されていましたが、調査箇所北端で、**石垣で護岸された土橋と堀の一部が見つかりました。**



鷺山東山麓の館の構造図

## 鷺山城（館）関連年表

永正6年（1509）ころ	守護所が革手から福光へ移る。この頃、鷺山城（館）建設か。
天文元年（1532）	守護所が枝広（岐阜市長良）へ移る。
天文4年（1535）7月	長良川大洪水。枝広の守護館被災。
天文4年（1535）8月～	内乱。この頃、守護所大桑（山県市）へ移転。
天文8年（1539）ころ	斎藤道三公、稻葉山城（後の岐阜城）築城。
天文12年（1543）	大桑の乱。大桑城落城。
天文13年（1544）9月	井口の戦い。道三公、権力掌握。
天文19年（1550）ころ	道三公、守護土岐頼芸を追放。

## 2.調査成果

### 【館の堀の痕跡を確認】

館の堀の一部を確認しました。過去の調査成果から幅は16mと推定され、上部は削平をうけており、深さは1.4m残存していました。

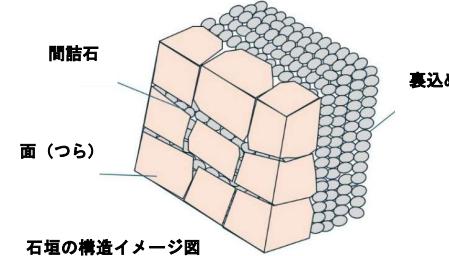
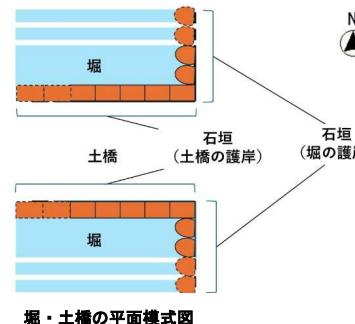
### 【館の土橋を確認】

両側に護岸をもつ土橋の一部を確認しました。土橋の幅は7.0m、確認した延長は6.5mでさらに西へ伸びます。

土橋の造成土中からは、正位置に置かれたような状態で16世紀前半の土師器皿（かわらけ）が1点出土しました。出土状況から地鎮【※2】に関する可能性が高く、土橋の築造時期の頃のものと考えられます。



土橋から出土した土師器皿（かわらけ）  
口径：9.9cm、高さ2.3cm



石垣の構造イメージ図

### 【土橋と堀を護岸する石垣を確認】

#### ●土橋の石垣

土橋を護岸する石垣は、石材をほぼ垂直に積み上げ、背面に裏込め【※3】を入れています。

石材は、面を揃えるように積まれておらず、石材の周りを間詰石【※4】で囲い込む「笑い積み」が見られます。石材の配置から装飾効果を意識していると考えられます。

#### 南側護岸の石垣

確認できる石材はすべて横方向に積まれ、最大3段、高さ1.4mが残存しています。

また、最大で87cm、高さ45cmの石材を使用しています。全体的にチャートが多くみられます。落石したと思われる石材には、砂岩も多く含まれます。

#### 北側護岸の石垣

石材を縦方向、横方向に積むものが混在し、最大3段、高さ1.6mが残存しています。また、最大で幅80cm、高さ66cmの石材を使用しています。

南側同様、チャートが多くみられますが、落石したと思われる石材には、砂岩も少量みられます。

#### ●堀の護岸の石垣

堀を護岸する石垣は北側、南側とも、主に円礫を使用し、最大で幅20cm、高さ15cmの石材を使っています。



### 【近世の堤防の跡を確認】

土橋の上層から、近世初頭に築かれたと考えられる堤防の痕跡を確認しました。

確認した堤防は幅7.6m、高さ0.7mが残存しており、昭和初期まで分流していた長良川支流の堤防の位置と重なることから、その一部と考えられます。

### 【これまでに約150点の遺物が出土】

戦国時代の土師器皿（かわらけ）、瀬戸美濃産天目茶碗、中国産磁器碗（染付）、銭貨などが出土しました。特に、出土した土師器皿には大形品が多く含まれていました。これは、これまでの研究から使用者の地位の高さを示すものと考えられます。



戦国時代の出土遺物

## 3.まとめ

今回の調査で、近世の地誌類にみられる鷺山城（館）に推定される、鷺山東山麓の館の東側の堀と土橋が確認されたことで、館の存在がより確かになりました。

土橋の造成時期が16世紀前半とみられることや土橋の石垣の装飾性の高さ、規模などから天文12年（1543）に発生した大桑の乱以降に、斎藤道三が土岐頼芸の居城として館を整備した可能性があるとみられます。

また、土橋の石垣の技法などから、美濃国内に石垣を造成する技能集団がいたことが分かりました。

### 【用語解説】

- (1) 鶴山東山麓の館：近世の地誌類には、「鶴山城」の文字がみられる。
- (2) 地鎮：建物などを建てる際に、地鎮神を祀り、ささげものを土地に埋納する行為。
- (3) 裏込め：石垣背面に石材を充填するもの。背面の排水、石垣崩落を防ぐ効果を持つ。
- (4) 間詰石：石材と石材の隙間に詰める石で、石垣の崩落を防ぐ効果を持つ。

### 【謝辞】

本調査の実施にあたり、地権者様、地域の皆様には多大なご理解とご協力をいただきしております。心より感謝申し上げます。